

概 要 報 告

実施期日	令和8年8月4日（火）
部会名	中学校 技術・家庭部会（技術分野）

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
（含む個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実）

テーマ

『生徒がより主体的に問題解決に取り組むための手立て
～題材テーマの設定、相互評価～』

提案概要

(1) 育成したい資質・能力

本実践では、生徒は真面目に学習へ取り組む一方、自ら課題を設定し、自分の考えを他者へ伝える表現力に課題が見られたことから、問題を自分事として捉え、主体的に課題解決へ取り組む力と、自らの考えを発信・表現する力の育成を目指した。

(2) 研究の進め方

生徒が主体的に問題解決へ取り組むことを目指し、「学校をよりよくするためのウェブページ」を題材に、身近な題材の設定、A I ツールの活用、ターゲットの明確化、相互評価を手立てとして授業を実践した。

(3) 実践の内容

① 身近な題材の設定

「学校をよりよくするためのウェブページを作ろう」と題材を設定し、生徒会からの依頼という形で制作活動を行った。2年生が今後、学校を支える立場となることを踏まえ、生徒総会で出された意見も参考に、「誰のために」「何を解決するウェブページなのか」を整理して課題を設定した。

② A I ツールの活用

ウェブページ制作ではHTMLを用い、基本となるサンプルプログラムを変更しながら構成や仕組みを理解した。その後、生徒が必要な機能を考えて追加するとともに、A I ツールでプログラム例を参考にしたり、エラーの原因を確認したりしながら、試行錯誤して作品を制作した。

③ ターゲットの明確化

制作に当たっては、「誰に向けたウェブページなのか」を明確にし、小学生への部活動紹介など、対象に応じて掲載内容や情報の伝え方を考えながら制作を進めた。相手に伝わる構成やデザインを意識し、目的に応じた表現となるよう設計した。

④ 相互評価の実施

作品がある程度完成した段階で、グループによる相互評価を行った。目的や見やすさ、機能などの視点から付箋で助言し、その内容を基に写真やリンクの追加、掲載内容の修正などを行った。また、他者の作品から得たアイデアを自分の作品へ取り入れる姿も見られた。

(4) 成果と課題

【成果】

- ・学校生活を題材としたことで、生徒は課題を自分事として捉え、具体的な課題設定を行う姿が多く見られた。
- ・A I ツールを活用し、必要な機能の追加やプログラムの修正に試行錯誤しながら取り組む姿が見られた。
- ・発信する相手を意識して内容や構成を工夫するとともに、相互評価を通して他者の助言や工夫を取り入れ、作品を改善する姿が見られた。

【課題】

- ・生徒会活動への関心やプログラミング技能には個人差があり、課題設定や制作活動への支援、学習進度に応じた教材の工夫が必要である。
- ・相互評価については、実施方法や回数をさらに検討する必要がある。

質疑応答

質問① 学校を題材とした課題設定はどのように考えたのか。

回答① 技術科では1年生は身近なもの、2年生は学校生活、3年生は地域・社会へと段階的に視点を広げて課題を設定している。

質問② ウェブページ制作ではどのようなソフトを使用しているのか。

回答② 今回のOS環境では基本的にテキストエディタを用いてHTMLを編集し、ウェブページを表示して確認しながら制作している。編集のしやすさを考えると、専用のアプリがあるとより取り組みやすい。

質問③ プログラミングが苦手な生徒への支援は。

回答③ 基本のテンプレートを用意し、一部を書き換えて制作を進められるよう支援している。

質問④ 小学校で身に付けておいてほしいことは。

回答④ プログラミング的思考を身に付けることと、基本的なPC操作ができれば十分である。

協議の柱及び協議概要

児童生徒が自分事として学習に臨むための手立て

キーワード：自分事、課題設定・課題解決、相互評価、学習進度

校種別グループで協議後、内容を模造紙に整理し交流した。続いて校種混合グループで実践や課題について協議し、代表2グループが内容を紹介した。

【自分事】

- ・身近な題材や目的・対象を明確にすることが主体的な学びにつながる。
- ・生活経験や家庭環境を踏まえた課題設定や導入が重要である。

【課題設定・課題解決】

- ・児童生徒自身が課題を見だし選択することが主体的な学びにつながる。
- ・発達段階や実態に応じた課題設定や解決方法の工夫が重要である。

【相互評価】

- ・助言し合うことで新たな視点や改善点に気付くことができる。
- ・ICTや教え合いを活用することが有効である。

【学習進度】

- ・一人一人の実態に応じた支援や課題設定が重要である。
- ・ICTやAIを活用した学習環境の工夫が必要である。

まとめ概要

本実践は、生徒が課題を自分事として捉え、主体的に問題解決へ取り組むための手立てについて、学校生活を題材としたウェブページ制作を通して検証した。身近な課題の設定、AIツールの活用、ターゲットの明確化、相互評価により、生徒が自ら考え、他者の視点を取り入れながら作品を改善する姿が見られた。一方で、生徒会活動への関心が低い生徒への課題設定、プログラミング教材、学習進度に応じた支援には課題が残った。今後は題材設定や教材、学習状況に応じた支援や相互評価の充実を図っていく必要がある。本実践は、生徒が身近な課題を自分事として捉え、主体的に問題解決へ取り組む学習過程の有効性を示すとともに、問題解決的な学習を充実させる授業づくりについて考える契機となるものであった。